

【質問内容】

1. 行財政改革と市立病院について
2. 新たな健康増進施策等について
3. 市民活動への参加の取り組みについて

〔9番 作野幸憲君 質問席〕

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員の質問は一問一答方式、質問時間は50分間です。

なお、作野議員につきましては、事前にパネル使用の申し出がありましたので、これを許可しております。

作野幸憲議員。

▼○9番（作野幸憲君）▽ 議席番号9番作野幸憲でございます。

今会議は平成最後の定例会議でございます。そして、これまで代表質問、一般質問を合わせて15の方が質問をされました。私が最後でございます。つまり、「平成の大トリ」と言うことでございますので、それにふさわしい質問をしっかりとさせていただきたいと思っております。

それでは、早速一般質問をさせていただきます。

まずは、1つ目の大項目、「**行財政改革と市立病院について**」質問をさせていただきます。

平成31年度予算の概要の予算編成の考え方は、第2次安来市総合計画の施策と総合戦略の施策への取り組みを重点かつ着実に推進することとし、中期財政計画を踏まえ、予算措置を行ったとのことでございます。平成30年度予算の概要の基本的な考え方と比べてみると、年度の数字は変わっていますが、ほかは一字一句、全く変わっておりませんでした。基本的な考え方でございますので、これで良いのかなとも思いますが、少しむなしさを覚え、厳しい財政状況と言っておられますが、本気度が余り感じられませんでした。

それはさておき、昨年12月に策定された平成31年度から向こう5年間の中期財政計画と今当初予算案を比較すると、次の点が気になりましたので、お尋ねをしたいと思います。

まずは、平成31年度当初予算案の経常的経費の中の物件費と補助費の伸びが気になります。その他の経常的経費も含め、今後についてどのような見解を持っておられますでしょうか、お答えをお願いいたします。

▼○議長（田中武夫君）▽ 村上総務部次長。

▼○総務部次長（村上和也君）▽ 失礼します。作野議員のご質問にお答えしたいと思います。

物件費、補助費につきましては、経常経費削減の重要な項目でありまして、またその反面、住民サービス等継続に直結する重要な費目であると認識しております。

今回の物件費、補助費の伸びにつきましては、当初予算の提案説明でも申し上げましたように、削減には努めてまいっておりますけれども、さまざまな事業の積み上げによりまして増となりました。とは言え、今後も引き続きまして事業の成果や必要性など優先順位等を考慮いたしまして、より一層の精査の上、予算の執行に努めなければならないと考えております。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○9番（作野幸憲君）▽ 次に、毎年基金に頼らない財政運営をと言っておられますが、財政調整基金を見ても過去2年間の取り崩し額は多くなってきておりますし、基金全体を見ても中期財政計画の取り崩し額が8億7,000万円に対し平成31年度予算案では約14億3,000万円となるなど、約5億5,000万円取り崩し額がふえております。平成30年度一般会計補正予算（第8号）の新規積み立てとしてふるさと寄附分1億円と、また財政調整基金には4,000万円しか積み立てられておりません。

このような状況ですが、今後基金に頼らない財政運営に向けどのようにされていかれますでしょうか。市長さんが言われるように、基金を積み増すことはできますでしょうか。お答えをお願いいたします。

▼○議長（田中武夫君）▽ 村上次長。

▼○総務部次長（村上和也君）▽ 基金の繰り入れでございますが、決算ベースにおきましては繰入額につきまして調整できるものと考えております。また、31年度当初予算につきましては、財政の健全性を考えまして、落ちついた予算になったというふうな認識も持っております。大型事業が終了した現状でありまして、今後地方債の償還、あるいは想定される諸課題に対応するために、財政調整基金を初めとする各種の基金につきましてはできる限り積み立てを計画するなど、検討してきたいというふうに考えております。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○9番（作野幸憲君）▽ それでは、今議会でも最大の課題となっております市立病院の件についてお尋ねをしたいと思います。

代表質問、一般質問でも多くの方が質問をされましたので、私は2点だけ質問をさせていただきたいと思います。

平成31年度安来市病院事業会計予算書を見ますと、給与費対医業収益比率が85.8%となり、新改革プランの収支計画を10%近く上回り、30年度の決算見込み85.3%も上回る予算となっております。以前の答弁にもあったように、給与カットは根本的な解決にはならないということはある程度わかっておりますが、しかしながら給与費をどうするかはもう避けては通れないと思います。

代表質問の答弁でもあったように、「給与費の削減は避けて通れない。しかしながら、現在は一般会計に頼らざるを得ない状況である。」この認識は私も同じでございます。本来ならば給与費を少しでも削減する案を出すべきだと私は思いますが、今回のような予算案を出さざるを得なかったことを設置者である市長さんはどのように思っておられますか。

▼○議長（田中武夫君）▽ 近藤市長。

変更ですか。

森脇副市長。

▼○副市長（森脇光成君）▽ 安来市立病院の新病院改革プランに基づきまして、現在病院職員の皆様には経営の健全化に向けて取り組んでいただいているところでございます。ですけれども、やはり現状の経営状況は厳しいものがあるというふうに認識をしております。依然といたしまして、患者が減少傾向にございます。そのような中、人件費の見直しはやはり必要なことであるというふうに判断をしております。ですけれども、給与費の問題につきましては、職員の生活に影響を与えるものでございますので、まずは職員の皆様のご理解をいただいた上で進めていく必要があるというふうに考えております。

現時点で申し上げますと、給与費の見直しを進めることにつきまして病院の職員労働組合との協議が見直しをしていく、協議をしていくことの合意が調ったということをご報告を受けておりますので、今後は具体的に進んでいくものというふうに考えております。よろしくお願いたします。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○9番（作野幸憲君）▽ それでは次に、平成31年度当初予算案の新規事業で予算額1,000万円の安来市立病院経営整備検討事業を打ち出しておられます。代表質問で市長さんの答弁を聞きますと、まず専門家に分析してもらった後に検討委員会を数回開き、ことし12月までに市立病院の方向性を決めるということですが、私は課題は既にある程度見えていると思いますので、市としての方針を決めた後に専門家、コンサルタントになると思いますが、相談をし、市民も含め検討すべきと考えますが、私はこれは一日でも早く市としての方針を決めなければ場合によっては大変な事態になる恐れがあると思いますが、市長さん、方針を決める時期を早めるつもりはありませんでしょうか。

▼○議長（田中武夫君）▽ 近藤市長。

▼○市長（近藤宏樹君）▽ 作野議員さんの質問にお答えいたします。

この策定に当たりましては重要な問題として認識しておりますので、一定の時間をいただき、本年12月をめどに安来市立病院の方向性についてご説明したいと思っております。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○9番（作野幸憲君）▽ なるべく早く方針を決めていただくことを考えていただきたいと思います。

そして、議会、議員の務めとしては、きのうの飯橋議員の質問のときにもあったように、事実とデータをもとに議論を進めること、そして現状を市民の皆さんに伝えることも大事な我々議員の仕事だと思っております。

そこで、2つのデータを紹介し、安来市立病院の現在の立ち位置と現状をしっかりと市民の皆さんにも認識してもらいたいと思います。

まずは《資料1》をご覧ください。

平成29年度 資金不足額がある公営企業会計(病院事業・市区町村【政令市含む】)の
資金不足比率ワーストランキング 《資料1》

市区町村の病院事業(461会計:政令市含む)中、資金不足額がある公営企業会計は51会計。

安来市は平成29年度ワースト14位。

出典:総務省 平成29年度決算に基づく健全化判断比率・資金不足比率の概要(速報値) 平成30年9月27日発表

H29年度 ワースト	都道府県名	市区町村名	公営企業会計名	資金不足額(千円)	資金不足比率(%)
1	福岡県	小竹町	小竹町立病院事業特別会計	162,210	33.3
2	長野県	大町市	病院事業会計	859,746	22.0
3	北海道	函館市	病院事業会計	3,173,296	18.3
4	秋田県	仙北市	仙北市病院事業会計	669,205	17.3
5	大阪府	柏原市	市立柏原病院事業会計	698,643	17.3
6	兵庫県	川西市	病院事業会計	788,759	16.9
7	青森県	青森市	病院事業会計	1,530,074	15.6
8	北海道	芽室町	公立芽室病院事業会計	282,354	15.5
9	岡山県	笠岡市	笠岡市病院事業会計	239,756	15.4
10	和歌山県	串本町	病院事業会計	238,886	15.0
?					
14	鳥根県	安来市	病院事業会計	298,345	12.6

作成:作野幸憲

平成30年度の安来市の資金不足比率は**18.7%**。

(上記の平成29年度に単純に当てはめるとワースト3位に相当します。)

これは昨年9月に総務省が発表した「平成29年度決算に基づく健全化判断比率、資金不足比率の概要の速報値」で、病院事業の区分で政令市を含む全国市区町村461会計の中で資金不足額がある公営企業会計51会計を資金不足比率が悪いほうから並べた上位のものです。平成29年度決算に基づくと、安来市は資金不足額2億9,834万円余で、資金不足比率は12.6%で、資金不足比率ではワースト14位であります。3月5日に可決した平成30年度一般会計補正予算(第8号)の市立病院事業会計負担金追加分1億8,000万円を入れると、平成30年度の一般会計からの繰出金は7億8,000万円となり、平成30年度の資金不足比率は18.7%となります。この18.7%という数字を平成29年度に単純に当てはめると、ワースト3位に相当します。また、平成31年度安来市病院事業会計予算書から推測すると、このままでは資金不足比率が20%台後半になり、また追加で2億円弱ぐらいを繰り入れないと20%は切れず、経営健全化計画を策定しなければならない状況になります。

このようなことを毎年繰り返してはもう絶対にダメだと私は思います。これはまさに先送りそのものでございます。まずはこの事実をしっかりと認識し、どう対応するか、今からしっかりと検討をしていただきたいと思います。

そして、《資料2》をご覧ください。

平成28年度地方公営企業年鑑(病院事業)で
一時借入金の多い自治体 《資料2》

出典:総務省 平成19・23・28年度地方公営企業年鑑 病院事業より

H28年度 ワースト	都道府県名	市町村(政令市を含む)と 一部事務組合名	平成28年10月1日 時点の人口	一時借入金(千円)
1	香川県	一部事務組合下北医療センター	-	4,542,548
2	北海道	函館市	266,805	3,320,000
3	愛知県	津島市	63,905	1,900,000
4	香川県	香森市	291,262	1,800,000
5	北海道	苫小牧市	173,291	1,471,346
6	福島県	南相馬市	63,519	1,400,000
7	北海道	深川市	21,683	1,250,000
8	秋田県	大館市	75,125	1,180,000
9	新潟県	南魚沼市	58,302	1,000,000
9	長野県	大町市	28,651	1,000,000
9	兵庫県	宝塚市	229,816	1,000,000
34位タイ	島根県	安来市	40,120	440,000

作成:作野幸彦

平成29年度の安来市の一時借入金は、**4億7900万円**。

平成30年度の // は、**5億7000万円**。

平成31年度の // は、**7億6000万円(当初予算案)**。

【平成19年度】市区町村(政令市含む)と一部事務組合等602会計中、一時借入金のある自治体は169自治体、10億円以上46自治体、安来市3億3000万円で106位タイ。

【平成23年度】市区町村(政令市含む)と一部事務組合等589会計中、一時借入金のある自治体は113自治体、10億円以上17自治体、安来市2億9000万円で63位タイ。

【平成28年度】市区町村(政令市含む)と一部事務組合等571会計中、一時借入金のある自治体は93自治体、10億円以上11自治体、安来市4億4000万円で34位タイ。

これも総務省が毎年出している地方公営企業年鑑の一番新しいデータから私が集計して出した平成28年度病院事業の中で一時借入金の多い自治体を表したものです。

平成28年度は政令市を含む市区町村と一部事務組合等571会計のうち、一時借入金のある自治体は93自治体で、安来市は4億4,000万円で、ワースト34位タイです。この時点ではまだ騒ぐほどではなかったかなとは思いますが、表の下を見てもらうと平成29年度の安来市、つまり市立病院の一時借入金は4億7,900万円、そして30年度は5億7,000万円、平成31年度当初予算案では7億6,000万円で計上されております。急激に増えていることがわかります。

また、下の点線枠部分を見てもらうとよくわかるのですが、このほかの全国の病院会計のある自治体は、一時借入金をしないような5年ごとの動きになってはいますが、安来市立病院は逆で、増えていっております。このことは以前より一時借入金に頼る経営体質があり、それが今でも当たり前になっていて、現在の厳しい経営状況に陥っている、私は大きな要因だと考えます。

3月4日の予算委員会の補正予算審議の執行部からの答弁にあったように、「今後は市長さんが先頭に立ち、経営改善及び病院機能改革を早急に進めていただきたい」と私は思っております。とにかく市長さんが先頭に立っていただければならないと私は思います。

今回2点だけ質問させていただきましたが、どうやって病院を守るか、存続させるか、議会はもとより関係の皆さん方、市民も含めて、もうこうなれば全員で一緒に考えていく、もうそういう時期が来たんだと私は思っております。このことを早く目途を立てませんと、

今度は本会計のほうに影響も出てくる可能性がありますので、何とぞ、ここ議場におられる皆さん方も、そして市民の皆さんもこういう状況であることを認識していただいて、市民の皆さんと一緒に病院を守っていくということを考えていきたいと思っております。

それでは、次に2つ目の大項目、「**新たな健康増進施策について**」質問をいたします。

私は、平成24年6月議会から何度もお金をかけずにできるウォーキングを中心とした健康増進施策を提言してまいりました。それは、医療費や介護費用を今まで以上に削減していかなければ、将来財政に大きな影響を与えていると考えたからでございます。そして、その都度、ICTを使った健康増進施策なども提案させていただきましたが、「健康やすぎ21」でやっているのので、答弁では調査検討をするということで今日に至っております。

現在、全国では健康ポイントやマイレージなど、さまざまな取り組みが行われていて、私も常任委員会や会派の視察で新潟県見附市や燕市、福島県伊達市や静岡県藤枝市、長野県上田市や茨城県龍ケ崎市などの取り組みも直接見てまいりました。県内の市町村でもこのような取り組みの動きが近年始まってきております。これからはデータを取得し、分析し、健康増進を進めていく時代だと私は考えております。

そこで、まず「健康やすぎ21」の実績について何点かお尋ねしたいと思います。

まず、私が気になるのは、「健康やすぎ21」における健康目標のメタボの減少とがんの調整死亡率の減少です。進捗はどれぐらい進んでおりますでしょうか、お答えをお願いいたします。

▼○議長（田中武夫君）▽ 太田健康福祉部長。

▼○健康福祉部長（太田清美君）▽ 失礼いたします。私のほうから「健康やすぎ21」における健康目標のメタボの減少等についてお答えをさせていただきます。

まず、メタボリックシンドロームというのは、内臓脂肪の蓄積によりまず肥満に加えまして、高血圧、脂質異常症、高血糖といったような動脈硬化の危険要因を複数あわせ持った状況をいいます。その中でメタボリックシンドロームは安来市国民健康保険の被保険者を対象にした特定健診の血圧、そして血液検査等の結果を見ることによってそれを数値化しております。その結果、血圧、脂質、血糖の値が基準値以上となるとメタボリックシンドロームの該当者という位置づけになります。

この該当者割合でございますが、平成26年度は19.6%でございました。「健康やすぎ21」では平成37年度を目標数値としており、14.6%としておりますが、平成29年度は18.6%でございます。

また、がんの調整死亡率のご質問でございました。

がんの年齢調整死亡率といいますのは、年齢構成の異なる地域間で死亡状況の比較ができるように年齢構成を調整した死亡率のことを申し上げます。「健康やすぎ21」ではこの41歳以上69歳の死亡率の低下を目標としているところでございます。がんの種類によって異なりますが、男性におきましては大腸がんの死亡率は増加傾向、肺がんは減少傾向にご

ざいます。女性では肺がん、子宮がんともに増加傾向で、大腸がん、乳がんは少しずつではありますが減少している状況でございます。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○9番（作野幸憲君）▽ また健康診査の特定健診受診率と主ながん検診受診率は平成37年度目標に対してどれくらい達成できていますでしょうか。お願いいたします。

▼○議長（田中武夫君）▽ 太田部長。

▼○健康福祉部長（太田清美君）▽ 安来市が実施しております国民健康保険の被保険者に対します特定健診の受診率でございます。

平成37年度に全被保険者の65%の受診というのを目標としております。平成29年度の受診率は36.7%で、近年の受診率は横ばい状況でございます。また、がんのがん検診の受診率については、40歳から69歳の壮年期の受診者で算出することといたしております。平成27年度報告から受診率の算定方法が変わったことによりまして受診率のみでは目標値と単純な比較ができない状況ではございます。受診者の目標で見ますと、子宮がん検診は目標達成に近づいており、またその他のがん検診につきましてはまだまだ達成できない状況でございます。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○9番（作野幸憲君）▽ 平成27年12月議会で私はロコモ対策について質問をさせていただきました。ロコモとはロコモティブシンドロームといい、簡単に言うと運動器の障害、先ほどもあったようにメタボは内臓の病気ということでございますから、それと対比されるような言葉でございます。ロコモはメタボと認知症と並び、健康寿命の短縮、寝たきりや要介護状態の三大要因の一つとも言われております。

この質問をした後に現在の「健康やすぎ21」の運動項目にこのロコモティブシンドロームについて記載をしていただき、その当時はロコモが唱ってある計画は他市町村、全国でもほとんどありませんでしたので、いろいろなところで紹介をすると安来は進んでいますねということで評価をいただいたことがあります。

とはいえ、ロコモがどこまで浸透したかはよくわかりませんし、余り浸透していないような気もいたします。ロコモを知っていただくための周知啓発活動はどのような形で行っておられますでしょうか、お願いいたします。

▼○議長（田中武夫君）▽ 太田部長。

▼○健康福祉部長（太田清美君）▽ ロコモティブシンドロームとは、先ほど議員もおっしゃいましたが、筋肉や骨などの運動機器が低下している状態を申し上げます。その状態についての説明やロコモ度チェック、ロコモ予防運動などについて全地区を対象としての健康講演会、また地区ごとに開催される健康推進会議での健康教室やミニデイサービスやミニサロンなどの会場でそれぞれ周知をしているところでございます。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○9番（作野幸憲君）▽ また、その質問をしたときに非常に簡単にできるロコモ度テ

ストというのも紹介させていただいて、その後いろいろな場面で実施、活用していただいていると思いますが、平成 28 年度以降の実施回数と参加者はどれぐらいおられますでしょうか。

▼○議長（田中武夫君）▽ 太田部長。

▼○健康福祉部長（太田清美君）▽ ロコモ度テストについてでございます。

ロコモ度テストには、立ち上がりなどが中心となる 3 つのテストがございます。安来市では比較的簡単で市民の皆さんからも希望の高い立ち上がりテスト、あわせまして片足立ちやつまずきの危険度などを調べます 7 つの項目をチェックするロコチェックというのがございます。これを実施させていただいております。平成 28 年度以降、ロコモ予防をテーマにした教室等の開催は 43 回でございました。それによる参加者は 1,098 人でございます。ロコモ度テストの一つであります立ち上がりテストを実施した回数は 9 回で、参加された方は 290 人おいでになりました。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○9 番（作野幸憲君）▽ また、私は健康とスポーツは切っても切れないと思っております。私も今、陸連とソフトテニス連盟の役員を手伝わせていただいておりますが、近年、各種スポーツ団体に聞くと会員の減少に歯どめがかからず、どの団体も困っておられるような状況のようです。私は競技主体から健康維持や増進のためのスポーツにももっと力を入れていくべきだと考えておりますが、見解をお伺いしたいと思います。

▼○議長（田中武夫君）▽ 大久佐市民生活部次長。

▼○市民生活部次長（大久佐明夫君）▽ 失礼いたします。健康づくりとスポーツは切っても切れない関係にあると考えております。今回策定いたします第 2 期スポーツ推進計画では、夢と感動を与える競技スポーツの推進とあわせ、スポーツを通じた健康増進を基本方針及び基本施策として唱っています。

競技スポーツについては、スポーツを通じて子供たちが社会において生きる力を身につけることができる教育プログラムの一つと言えます。ただ、多くの皆様は競技スポーツの大会で活躍するトップアスリートの姿に大きな夢や希望を抱きます。そして、それは我々に希望や勇気を与えるとともに、スポーツへの興味や関心を高め、活性化に大きく寄与しています。一方、議員おっしゃいますように、スポーツを通じての健康の維持増進を図ることも重要な施策であると認識しています。関係機関と連携しながら健康施策の推進にもさらに力を入れていきたいと考えております。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○9 番（作野幸憲君）▽ 私は以前よりスポーツや日常の運動、特にウォーキングを通して医療費や介護費用を削減することに力を入れていくべきと考え、歩道に距離表示のあるウォーキングコースについても提案をさせていただき、マニュアルも確か作っていたと思っておりますが、その後なかなか進んでいないようでございます。

ウォーキングコース等についてもいろいろ質問させていただきましたが、質問のたびに

これも「健康やすぎ 21」の中でやっていくような答弁をいただいておりますので、「健康やすぎ 21」の中で成果はどれくらい上がっておりますでしょうか。

▼○議長（田中武夫君）▽ 太田部長。

▼○健康福祉部長（太田清美君）▽ 「健康やすぎ 21」に基づきまして健康寿命の延伸を目標といたしまして運動の習慣化に取り組んでいるところでございます。安来市健康推進会議が推進母体となってウォーキングやウエルビクス、またゴムバンドを使った運動教室など、健康づくり活動を推進しております。市内各地で健康推進会議が主催をいたします、また共催をいたしますウォーキング大会が行われている状況でございまして、平成 29 年度は 23 会場で開催され、2,241 人の参加がございました。毎年継続的に実施されている状況がここのところ続いております。また、ゴムバンドを使いました運動教室も広がっておりまして、現在市内で 19 の教室が開催されている状況です。

介護保険の要支援や要介護の認定者割合がほとんど増加せず、横ばいで維持できていることから見ましても、これらの運動の習慣化は介護予防の一環としても一翼を担っていると十分理解をしているところでございます。

医療費につきましては、安来市におけるもので特化できるものは長年の糖尿病の防止に対する習慣化ということがありまして、糖尿病にかかる患者さんの 1 人当たりの医療費が県下でも大変低い、そうした状況がございます。これは運動を初め、食事、歯などの健康習慣の生活習慣の予防に努められた成果ではないかと。特に糖尿病対策につきましては、ことしがちょうど 20 周年になりますが、長年にわたる取り組みが大きな成果を生んでいるものと考えているところでございます。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○9 番（作野幸憲君）▽ 先ほども申し上げましたが、私は ICT 機器などを使い、データを取得し、分析し、健康増進施策を進めていく時代だと思っております。今や無料のスマホアプリなどを使えばほとんどお金をかけずにできる方法もあります。県内の市町村でもそういう取り組みに向かってスタートされたところもございます。

そこで、今までも何度も提案してございまして恐縮なんですけど、今こそ ICT 技術を使った健康増進施策にすぐにでも取り組むべきと私は考えておりますが、いかがでしょうか、お答えをお願いいたします。

▼○議長（田中武夫君）▽ 太田部長。

▼○健康福祉部長（太田清美君）▽ 安来市では ICT 技術を使いました健康増進施策として初めてやりましたことが、島根県の市町村での初めてだと思われませんが、胃がん、乳がんの集団検診のウェブ予約というのに手がけることができました。これによりまして、平日の夜ですとか休日、そうしたものについてウェブで予約ができるようになったことが功を奏して、特に乳がん検診につきましては 40 代の新規受診者が 28 人ございまして、そうした利便性が高くなったと考えており、そうしたことから受診の人数の増加があったと考えているところでございます。

そのほかICT技術を使った健康増進施策につきましては、先駆的な事例や近隣の状況も見ながら今度も引き続き課題として検討していきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○9番（作野幸憲君）▽ 確かに乳がん検診、昨年からだったですか、やっておられますが、このあたりも他のものにも広げていただくこととか、できるものからやっていただきたいと思っております。

健康増進施策、ICTを使うだけではないと思っております。知恵を出せば紙ベースでもかなりいろいろなことができると思っておりますので、是非とも新しい健康増進施策に向かっていくことも積極的に検討をいただきたいと思っております。

それでは、最後の大項目、「市民活動への参加の取り組みについて」質問をしたいと思っております。

私はもう数年前より安来市ボランティア団体ネットワークの運営委員を長らくさせていただいております。安来市のボランティア活動等を見ると、ほかの市町村と比べて活発化というとなかなかそういう状況ではないように私は思っております。第2次安来市総合計画の前期基本計画の中にも参画協働の推進が唱ってあり、現状と課題としては「市民がまちづくりに参画する機会が十分でなく、職員が市民活動にかかわる機会や市民がまちづくりにかかわる機会の充実が必要です」と記載してあります。

そこでお尋ねをしたいと思っております。

私なりに広報紙などで講演会や講座なども含め主なイベントをちょっと数えてみると、市が主催するだけでも年間30以上ぐらいはあったかなと思っておりますが、現在安来市が主催する主に講演会や講座などのイベントは年間どれぐらいありますか、お願いをいたします。

▼○議長（田中武夫君）▽ 青戸市民生活部次長。

▼○市民生活部次長（青戸厚志君）▽ お答えいたします。

市では毎年多種多様なイベントや講演会、講座、研修会、講習会などを実施しておりますが、全て把握はできておりませんが、市報の中の市民カレンダーで周知しております主なイベントや後援会などだけでございますが、平成30年度は31件でございますが、各部署、創意工夫しながら多くの市民の皆さんに参加していただけるよう実施しております。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○9番（作野幸憲君）▽ それでは、市民団体が主催するイベントはどれぐらいありますか、把握しておられますでしょうか。

▼○議長（田中武夫君）▽ 青戸次長。

▼○市民生活部次長（青戸厚志君）▽ 市民団体の主催で行われる活動につきましては、各団体が独自に活動されておりますので、全てを把握することはできませんが、市の補助

金事業の地域トライアングル事業補助金、地域元気いきいき補助金を活用されて実施された市民活動事業は平成 29 年度、30 年度ともに 26 件でございます。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○9 番（作野幸憲君）▽ それぞれの参加者の人数はどのように推移しておりますでしょうか。

▼○議長（田中武夫君）▽ 青戸次長。

▼○市民生活部次長（青戸厚志君）▽ それぞれの参加者の推移につきましては、天候による影響でその年々で増減もあることや、参加人数の制限がある事業などがありまして一概に申し上げることはできませんが、市主催に関しましては増加傾向、市民団体に関しましてはおおむね横ばいで推移しておる状況であると思っております。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○9 番（作野幸憲君）▽ 今回この質問をしましたのは、私を感じるのには近年イベントというものすごく多くなってきているように感じております。しかしながら、イベントが増えた一方で個々のイベントの来場者は頭打ちの状態のように思っております。そして、来場者の顔ぶれも余り変わっていないように思えます。また、イベント花盛りの時期には日時や時間が重なることも多く、そのことも頭打ちの要因だと考えられるのかなとも思います。

今週の日曜日、地元新聞の巻頭コラム「羅針盤」に元総務大臣で元鳥取県知事の片山善博さんが「統一地方選挙を控えて」という題で考えを述べておられました。その中の一節で、「自治体の仕事を決める予算を見ると教育や子育ての経費は不足している一方で、つまらないイベントには多額のお金を費やしている。もしこんなピン外れの自治体があるとすれば、予算を作った首長の見識だけではなく、それ以上に予算を修正もしないでそのまま通過させた議会の見識と責任が問われなければならない、予算の最終決定権は首長ではなく議会にあるからである」と書き綴ってありました。私自身、ドキッといたしました。

今の安来市財政を考えて、イベントが多いということの意味は、私が考えるに削れるイベントもあれば一緒に実施できるイベントもたくさんあるということにもなるんじゃないかと思えます。これからはイベントなどに顔を出されていない方々に参加してもらえるような形を考えていかなければ、真の参画・協働にはならないと思えます。

ことし1月、会派の行政視察で「まちづくりポイント制度」を実施しておられる茨城県龍ヶ崎市に行ってみました。龍ヶ崎市では市民が地域や行政に対する関心や理解を深めるとともに、まちづくりの担い手として市民活動への参加推進及び活性化を目的にこの制度を平成 26 年1月より行っておられます。平成 22 年度に公募市民と地元大学生、市職員から成る総合計画策定会議を立ち上げ、3年間かけ制度を構築しておられます。この制度は、市が指定した活動に参加することや申請のあった自治会の環境美化、防犯、防災活動なども対象で、1回につき1枚のポイントシールがもらえ、シールはポイント手帳に張って貯めます。ポイント手帳というのは、こういう小さいポケットに入るかわいらしいも

のなんです、シールというのはこれが10枚綴りなんです、こういうのを1回参加するところに張ってもらうというような、紙ベースでのこういう制度でございます。

20枚シールをためると、地元の名産品や温泉施設の入浴券、コミュニティーバスの回数券など、いろいろなものと交換できます。構築費も印刷製本費が大部分で約87万円、年度別の運営経費を見ても年間130万円といったところでございます。成果を聞いたところ、市民活動へ参加してもらうきっかけづくりになったこと、何より市民活動への参加が楽しみになり張り合いができたことなどでした。また、参加することによってご褒美がもらえることも継続的な参加につながっているということでした。安来市も新たな市民活動参加者のきっかけづくりや高齢者の生きがいとして龍ヶ崎市が実施しておられます「まちづくりポイント制度」のような施策を考えてみてはと思いますが、いかがでしょうか、お答えをお願いいたします。

▼○議長（田中武夫君）▽ 青戸次長。

▼○市民生活部次長（青戸厚志君）▽ ご提案いただきましたまちづくりポイント制度につきましては、現在制度を策定することを考えておりませんが、今後の取り組みの参考にしてまいりたいと考えます。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○9番（作野幸憲君）▽ 次、質問したときに違う答弁を期待しておりますので、よろしくをお願いいたします。

今回、私が準備した質問は以上でございます。

今議会、市立病院の質問が多かったと思います。それはやっぱり議員の皆さんもみんなこのままじゃいけない、みんなで考えてどうにかしようという思いが強かったものだと思いますので、市民の皆さんも含めて全員でこのことをしっかり検討し、良い方向に向かうよう祈っておりますし、議会もしっかりと協力をしていかなければならないと思っております。

以上で私の一般質問を終わります。